

ともいき通信

Vol.19

■発行元
認定 NPO 法人
人と動物の共生センター
2022.12月発行

『ともいき通信』は、人と動物の共生センターに協力してくださっている方とセンターを繋ぐニュースレターです。人と動物の共生センターの活動の様子を、会員や配布先の皆様にお知らせしております。



犬猫相談

ホットライン

開設しました



自分の生活にも困り
猫に与える餌がない…



犬猫がいるから
転居・入院できない…



■現場インタビュー

生活困窮者飼育支援の 現状を語る

- ・それぞれの思い
- ・ご支援くださった皆様



人と動物の共生センター



INTERVIEW

現場インタビュー

生活困窮者飼育支援の現状を語る

多頭飼育崩壊の背景には、飼い主の精神、発達障害や、社会的孤立、経済的困窮があります。多頭飼育崩壊の予防には、動物が増えてしまう前に、飼い主に対し予防的な介入が必要です。

人と動物の共生センターでは、2022年より、生活困窮者に関わるペット飼育の課題解決に向け、動物相談ホットラインを設置、訪問型の寄り添い相談支援を実施しています。

本稿では、本事業を担当し、日々、人と動物の支援現場に向かっている鈴木相談員、松本相談員に、現場での苦勞と今後の展望を伺いました。



鈴木支援員



松本支援員

多頭飼育崩壊と生活困窮問題の概要

殺処分ゼロが達成されつつある昨今、殺処分ゼロに近づいたからこそ、その背景にある数々の問題が取りざたされるようになってきています。

全国の保健所等の行政施設の犬猫の引き取り数は、TNRや、野良猫・野犬の保護活動により、年々減少しており、2010年に164,308頭だった犬猫の引き取り数は、2020年には72,433頭と10年間で半減しています。

順調に減少してきた引き取り数ですが、全てが順調なわけではありません。飼い主からの所有権放棄については、成猫において微増（2019年：10403頭⇒2020年：10479頭）しています。尚、子犬、成犬、子猫の所有権放棄は、同時期においても減少しています。

成猫の所有権放棄が、微増した原因は、多頭飼育崩壊であると考えられます。多頭飼育崩壊では、一人の飼い主が多数の動物を放棄し、保健所が引き取ることになるため、引き取り頭数が増加する傾向にあります。

また、多頭飼育崩壊だからといって、保健所に収容されるのはその一部です。多くは保護団体やボランティアの仲介により譲渡されており、統計に反映されない多頭飼育崩壊も多数存在します。成猫の保健所引き取り数の微増は、多頭飼育崩壊の増加を示唆する変化であると考えられます。

このような現状の中、環境省は、2021年3月『人、動物、地域に向き合う多頭飼育対策ガイドライン～社会福祉と動物愛護管理の多機関連携に向けて～』を発行、厚生労働省と共に、各自治体への通知を行いました。

岐阜県でも、社会福祉と動物福祉の連携に向けた会議が開催されています。



ネコが40匹に増えたため、天井がほぼ抜けてしまった部屋



家の外に放置されたままのゴミ。生活環境の悪化につながる。



痩せて背骨が浮き出ているネコ

なぜ、生活困窮者支援の事業をスタートさせたのですか？

(鈴木)

2020年ごろまでは、TNRの普及による、野外で繁殖する猫を少なくする活動を中心に行っていました。ロードキル調査を実施し、実際に全国的に野外で死亡する猫の数が減少している実態も把握することができ、各地で行われているTNRやTNTAが効果を発揮しているんだなと実感している所でもありました。

家の外でエサを与えて増やしてしまう方の中には、生活保護だったり、地域の中で孤立していたりという方が少なくないんですね。そうした方の相談を受ける中で、自然と地域包括支援センターやソーシャルワーカーの皆さんとのつながりが生まれてきました。

そうしたつながりの中から、飼い主が自宅の中で増やしてしまう案件の相談も頂くようになりました。はじめて本格的な支援に入らせていただいたのは、「飼い主死去のゴミ屋敷の中にネコが何匹もいて、ゴミを捨てようにもネコがいてどうにもならない」という相談でした。結果として、そのゴミ屋敷の猫を共生センターで保護し、譲渡をするという活動に発展しました。

それから、「借金があって引っ越さないといけなくて、ペットがいて引っ越し先がない」「精神疾患で入院の必要がある人がいるが、猫がいて入院ができない」などの相談が寄せられるようになっていきました。



飼い主さんが入院のため預かっているネコ

頼れる場所があるということが、社会福祉の方に、徐々に広がっていったんですね。

(鈴木)

多くの保護団体さんが経験していると思いますが、保護活動者、NPO、保健所に相談が寄せられるのは、もう後がない、動物の頭数が10匹以上になっている、近隣からの苦情がすごいなど、かなり問題のボリュームが大きくなってからなんです。

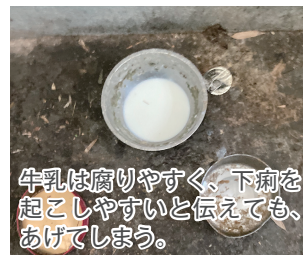
どの問題も飼い始めは飼い主さんもお元気で、動物の数も1、2匹。裕福でなくてもそれなりに生活していた時期があったはずです。その時に相談に乗ることができたら、人も動物たちもこんなに苦しむことはなかったのに…そう感じたことが、生活困窮者飼育支援



飼い主が病気のため世話ができません、散らかり放題。

を本格的に事業化していくきっかけになりました。

相談の中には、飼い主自身が何らかの障がいや疾患があり、必要な福祉支援を受けられていないのではというケースもあります。動物の数を増やしてしまったり、収入に見合った飼い方ができない状況になっても、『飼い主は動物のことを何とも思わない悪人だ』と断ずることはできないと思うんです。生きづらさを抱えている飼い主自身が、きちんとした支援とつながることで、人も動物も穏やかに、福祉を守りながら過ごすことができるのではないかと思います。



牛乳は腐りやすく、下痢を起しやすくと伝えても、あげてしまう。



お金がなく、医療にかけられない

なるほど。本人自身が支援とつながる、動物への支援だけでなく、人への支援を行うということがポイントなんですね。松本相談員は、鳥取から引っ越してきたの参加ということですが。

(松本)

はい、私は本事業がスタートする際に、事務局職員を募集していたことがきっかけで応募しました。私自身、鳥取で人と動物の共生をテーマに事業を進める準備中で、様々な支援のかたちを学びたいと思っていてその機会を探していました。

以前より人と動物の共生大学で沢山のことを学ばせてもらっていました。2022年3月に開催された10周年シンポジウムでは、それぞれの考え方の違いで否定や分かり合えない時代は終わり、違いを尊重しながら手を取り合う時代に変化しているんだとひしひしと感じました。みんな命を粗末にしかけてしているわけでもないし、互いに幸せを感じ合えるように、共生したいという共通点もある。動物だけじゃなく、それぞれの「人」の思いも尊重して事業を進めている場所で成長したい。そして持ち帰りたいという思いで、必死に履歴書を書きました。



鳥取とのネットワークができることは、これからの共生センターの活動にも弾みになりそうですね！
ホットラインは2022年8月から稼働されているとのことですが、具体的にはどのような相談が寄せられているんですか？

(鈴木)

緊急性が高いものだと、飼い主の体調不良により入院が必要だが、ペットがいるから入院しないと言ってあるケースです。生活保護や年金暮らしのためお金もないので、ペットホテルやペットシッターなどのサービスは受けられないからどうしようというものです。そのほかには動物を引き取ってほしいけど数が多いし、保健所には連れて行きたくないとか…

(松本)

猫が増えすぎて匂いなど衛生面の管理ができずに退去を迫られていたり、保護費を受給中の方がペットの食費に生活費の半分ほどを使って可愛がっているけど医療のほうの知識がなく避妊去勢をせずに増えてしまう等、ご相談は高齢世帯のケースが多いと思いきや若年層の生活困窮世帯からのご相談が生活福祉課などからもあります。



エサと水は与えるがトイレは新聞紙を敷き詰めただけの飼い方。

『動物の問題』というよりも、『人の困窮の問題』なんだと感じます。実際に行っている支援はどのようなものですか？

(鈴木)

まず、社会福祉支援の関係者から連絡があった場合には、本人に了承を取ってもらって、現地に伺います。その際に家族構成、金銭的状况、動物の頭数、今問題となっていることなどを伺います。その情報から、私たちのキャバや飼い主さんの状況などを総合的に考えて、優先させなければいけない対策を決めていきます。未避妊去勢の動物がいる場合にはその手術を最優先にさせるようにしています。

(松本)

避妊去勢手術など、最優先の対応が一段落したら、飼い主さんと動物の生活の支援についてもできる範囲で行っていきます。例えば、動物の糞尿で衛生的に人が住める環境にないけど、引っ越しもできないという場合、きちんと動物の居場所を分けし、清掃を行うことで、人の生活の立て直しの助けになります。多頭

飼育崩壊の場合、動物のことを考えれば、新たな飼い主に譲渡すべきですが、必ずしも飼い主がそれを望むわけではありません。引き離されることに強いストレスを感じる方もいます。動物の方も、病気があったり、問題行動があれば、譲渡は容易ではありません。

飼い主の生活を支援することで、飼い主と動物と一緒に住み続けることができるのであれば、引き離さずに一緒に住み続けられるようにすることも一つの解決策ではないかと考えています。

『動物の保護』の活動ではなく、解決策を探す活動なんだと感じます。これまでの支援の中で、印象的な事例はどのようなものがありますか？

(鈴木)

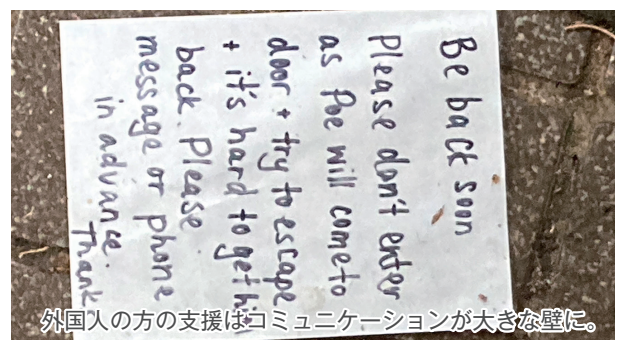
ひとつ目は、オーストラリア人の方の相談です。飼い猫は1匹だったんですが、外の野良猫にご飯をあげていて。どうすればいいか、言葉が通じれば、説明できるのですが、私は英語を話せないので、翻訳アプリを使っただんですがうまく伝わらなくて、とても大変でした。

ご本人もコロナで仕事がなくなってしまったため、生活に困窮していてその支援に繋がたくてもどこに相談していいかわかりませんでした。

(鈴木)

もうひとつは、無職の50代の女性宅で、20匹の未不妊の猫を飼育していたんです。すべての猫がノミだらけで驚愕しました。飼い主はこれ以上妊娠しないようにと、メス猫をリンゴ箱のような大きさの木の箱に入れて管理していたんです。

猫を箱に入れるなんて、一般の人から見たら虐待なのですが、飼い主さんなりに考えて、これ以上事態が悪化しないようにとった最良の策ではあったんですね。だから、私たちのように支援に入った人が「そんなことしたらネコたちがかわいそう！」なんて言ってしまったら、飼い主さんとの信頼関係が作れず、こじれてしまうだろうと思いました。猫が飼い主の所有物である以上、私たちが飼い主との適切な距離感で接し、信頼を得ないと何も手を出せないんです。つい、動物の立場にたちがちですが、飼い主に寄り添い相談するというのを常に意識しています。



外国人の方の支援はコミュニケーションが大きな壁に。

(松本)

私は、30代の生活保護受給者の方の支援が印象的です。20匹ほどの猫がいて、糞尿も十分に片づけられず、衛生環境が非常に悪い状態の中で飼育されていて…。大家さんから引っ越しとそれに伴う修繕費を迫られている状況でした。

外部からの支援なども今までほとんどなく、本人たちだけではどうすることもできない状況に陥っていました。ご本人は猫を手放したくないと思っている、猫白血病の個体もいて譲渡はなかなか難しい状況。それらの状況で猫だけをどうにかしても解決には至らないと思いました。そのご家族にとってなにが一番なのかを手探りの支援を続けています。

(松本)

もう一件、これから支援にはいる予定なのですが、85歳と80歳のご夫婦が4歳の秋田犬を飼育されているそうなのですが、お二人とも施設に入所する必要が出てきて秋田犬を飼ってくれる人がいないかというご相談がありました。現在のお散歩やお世話の状況が気になったのですが、近所に住む人が散歩には行ってくれているとのこと。一緒に暮らし始めた時点でも結構な高齢なので、なぜ、そんなタイミングで大型犬を迎えることになったのか、その経緯なども気になっています。後日訪問してヒアリング予定です。



まだ若いネコの姿も。飼い主は最初にオスメスで飼ったのがいけなかったという。

どの事例も、完全に解決するというより、寄り添いながら支援し、共に悩みながら進んでいるという印象を受けました。非常に大変なご支援だと思います。

できることが、少しずつ積みあがってきている所だと思いますが、まだ出来てないこと、足りない資源、これから必要な取り組みについては、どう思われますか？

(鈴木)

やはり、社会福祉の支援に関する知識が追いついていないと感じます。生活保護の方、65歳以上の人、障がいを持っている人が受けることのできる公的な支援の内容を理解しなければ、必要な支援につなげることができません。例えば、生活保護の方は、診療が無料だったり、ケアマネさんを通じて、法テラスを利用できた



ノミだらけのネコ20匹にノミ駆除薬を塗布

りするのですが、そうした情報も、この活動を始めてから、色々な方に教えていただき知りました。

それに加えて、他分野の方とのつながりが必要だと感じています。ペットの飼育が困難になる人の背景は様々で、引っ越しが必要になる、グループホームに入所を勧められるというケースもあります。こうした活動に理解のある不動産会社や、グループホームや就労支援施設など、社会福祉支援の事業所とのつながりも作っていきたいです。

(松本)

要支援者の生活の根本的な課題が解決しないことには、ペット飼育の問題も解決が難しく、切り離せないことを痛感しています。鈴木さんと同じで、公的な支援、例えば、自立支援機関や社会福祉協議会などのお金の管理や生活の立て直しを支援してくれる機関との繋がりが必要だと思います。最近では、生活保護や精神疾患の生活の自立ガイドブックなどを読み漁るようになりました。



失業手当で暮らす家庭に17匹のネコ





臨月の野良猫。この2日後に出産。この現場では3匹の妊娠ネコがおり、全て出産してしまった。えさやりさんに里親募集ができるスキルはない。

もうすでに、社会福祉の支援者の一員なんだなと感じますね。社会福祉と動物福祉の連携と支援、これから先、どんな状態になることが理想だと考えますか？

(鈴木)

社会福祉の支援者の輪に、私たち動物福祉の支援者が当たり前に入っている状態を目指したいと思います。これだけ多くの方が動物を飼育している現在、動物だけ置き去りにして人の支援を行うことは困難です。今はまだ、私たちのような支援者は珍しい存在かもしれませんが、これが当たり前になっていくことで、誰もが安心してペット飼育ができる社会につながるのではないかと考えています。

そして、その状態になることで、社会福祉の支援者が気軽に相談してもらえるようになると思います。1匹でもペット飼育をしている人に対しては、困ったことになる前に、紹介してもらい、私たちのような支援者が支援に入ることができるようになれば、多頭飼育崩壊をはじめとした問題を未然に防ぐことができるの



同居の未去勢のオスに噛まれて傷だらけのメスネコ。適正な飼い方を伝えるところから支援が始まる。



ネコの群れの中で暮らすイス。ネコと同じフードを食べているが、案外長生きしている。

ではないかと考えています。

(松本)

ほんとうにそうだと思います。先日初めて病院のケース会議に参加させていただきました。要支援者の今後の生活をどうしていくか精神科医、看護師、支援員、行政、そして今回動物担当ということで私たちも入れていただけたのですが、みんなで話をすることで、本人の希望と支援者の目標をどこに置くかを共有でき、早い段階で動物に関する支援の提案もできるので、このような機会が当たり前に行えるようになることは重要だと思います。

公的支援の届かない制度の隙間に、私たちNPOができることを届け、そして、その取り組みが、社会の当たり前の制度に発展させていければと考えています。



南側の部屋で暖をとるネコ

困難な道のりだと思いますが、次の一步はどの方向に踏み出していきますか？

(鈴木)

現状、人と動物の共生センターというNPO法人の事業として、助成金を受けて活動しています。しかし、生活困窮者の支援である以上、収益性は皆無であり、助成金も長くは続きません。今後どのように経済的に持続していくかという部分は課題です。

一方で、この事業は、社会福祉に無くてはならない事業だと改めて強く実感しています。その意味で、将来的な行政での予算化は、絶対に必要になってくると思います。行政や議会にこの意義を伝えることはこれから取り組むべき活動です。

(松本)

やはり、ペットの問題を抱えていて福祉や医療の支援の妨げになっているかたはいらっしゃって、それによって支援者の負担増にも繋がっている現状です。妨げや負担を減らすためには、動物福祉の支援者が、社会福祉にはどうしても必要です。

(鈴木)

この事業は、社会福祉の一部です。この事業があることで、他の社会福祉支援が円滑にまわるようになる。その必要性を皆さんに認識してもらうことが必要だと感じています。そして、行政の事業としてきちんと予算化して、経常的な事業とすべきだと考えています。

社会福祉の一部であるとの言葉、実現に向けて一歩ずつ歩まれている姿勢、感銘を受けました。本日は、ロングインタビューお付き合いいただき、ありがとうございました！お二人のこれからのご活躍を楽しみにしています！



それぞれの想い

人と動物の共生センターには、たくさんの方が関わり、人と動物の良き共生を歩めるように活動しています。18回目となる今回は、浦野未来に活動に対する想いを教えて頂きました。

「知らない」から 「知る」機会を増やしたい！

NPO 法人人と動物の共生センターと NPO 法人全国動物避難所協会で、主にペット防災に関する活動を行っています。

私は愛知県出身で、生まれてから今まで、大きな災害を受けた経験がありません。しかし、ここ東海地方では、何年も何年も、南海トラフ地震がくるぞ、と言われ続けています。

にもかかわらず、共生センターに出会うまで、私はペットの防災について考えたことがありませんでした。しかし、知ってみればペットを飼っている人はもちろん、飼っていない人にも関係のある話ばかりで、自分自身、知ったことで準備できたことはいくつもあります。

「ペットを飼った以上、知る努力をするのは当たり前」そう思う方もいるかもしれませんが、もちろん知ろうとすることは大切だと思います。しかし、情報が多く、なかなか知ることが難しいということもあると思います。

だからこそ、私たちは、より多くの方に「知らない」から「知る」という機会を増やすこと、そして、知った後の選択肢を増やしたり、みなさんと一緒に考えたり、活動のできる場所をつくることを大切にしていきたいと思っています。

今参加していただいているみなさんは、私よりも知識や経験が豊富な方ばかりだと思います。ぜひ、これからも沢山のご意見やお力を貸してください！



ご支援をくださった皆様

2022年7月1日～2022年11月30日まで（敬称略・順不同）

たくさんの方からご支援いただきありがとうございます。
本会の活動のは、皆様からの想いと真心によって支えられています。
今後とも、ご理解・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

安本 宏美	伊藤 史哉	合同会社YAC	加藤 詩織	外薗 椋	穴吹 佳世	
後藤 大介	江崎 優子	紅林あづさ	細川り香	榊原 邦子	NPO法人 SPICA	
山本ひとみ	寺内 宏光	手島 貴子	(株)フジアウテック大阪南	小島 禎子	松澤ゆずき	
上島 晴子	新崎 清香	森本とも子	菅井 月美	石丸 彰子	千葉 桂子	増田 潔
村田 雄大	ハナ動物病院	大和田眞喜	大澤 紀子	辻村 奈己	釣井 千恵	
田積 史子	渡辺 英毅	渡辺 昭代	渡辺 智子	藤牧 敏子	徳丸 希和	豊留侑莉佳
北村 優	堀内 理恵	林 弘友紀	鈴木 章子	鈴木 晴	那須 剛	小川 直子
小野亜由美	木村 容子	檜田 篤子	大倉 久子	中山 順子	野々村太希	岡崎 志穂
中野 敦志	武富力之介	井上 光絵	犬塚 郷子	廣原 利江	伸興ファスト	(株)クリーンK
青山 研	高橋 葵	西岡 治紀	株式会社Noto カレッジ	石塚佳那子	内田 裕美	
藤田 南風	村田 亨	松本 温子				

人と動物の共生センターの活動に

ご参加 **ご支援** **ご活用** ください

人と動物の共生センターでは、人と動物が共生できる社会づくりに向けて活動を行っております。活動へのご参加・ご支援につきましては、随時募集しておりますので、お気軽にお問い合わせください。また、人と動物の共生センターに仕事（講演・研修等）を依頼したいという場合にも、是非ご活用いただけましたら幸いです。

ご支援ください

■賛助会員募集

人と動物の共生センターの活動を支援していただく、賛助会員を募集しております。認定NPO法人取得を維持する関係から、年間100人以上の賛助会員が必要となります。賛助会費は活動の中でも『ペット防災』『野外繁殖抑制』の分野に利用させていただきます。

■年会費：3000円/口
(複数口も承っております)

■ご寄付募集

賛助会員だけでなく、ご寄付も募集しております。ご寄付いただけます場合は、下記口座までお振込みのほどよろしく願いいたします。

【郵便振替口座記号番号】

00800-6-123387

【口座名義】

特定非営利活動法人
人と動物の共生センター



▲QRコードから
クレジット決済できます

税制優遇が受けられます！

個人が認定NPO法人等に寄附をする場合

個人が認定（特例認定）NPO法人に寄附すると、所得税の計算において、寄附金控除（所得控除）又は税額控除のいずれかの控除を選択適用できます。また、岐阜県では認定（特例認定）NPO法人に個人が寄附をすると、個人住民税の計算において、県民税4%、市町村民税（ただし、各市町村の条例で定めている場合に限る）6%の寄附金税額控除が適用されます。（確定申告が必要です）

例）年収300万円の方が1万円寄付した場合

■所得控除計算例

所得税 10,000円 - 2,000円 × 5% = 400円

住民税 10,000円 - 2,000円 × 10% = 800円

合計 1,200円の控除

■税額控除計算例

所得税 10,000円 - 2,000円 × 40% = 3,200円

住民税 10,000円 - 2,000円 × 10% = 800円

合計 4,000円の控除

※岐阜県にお住まいの方の所得控除と税額控除の比較です。控除には限度があり、実際の税額はケースにより異なります。

ペット産業CSR白書のご購入

Amazonにて販売中

ペット産業のCSRを推進する事を目的に発行された【ペット産業CSR白書-生体販売の社会的責任-】は、4題の独自調査し、「ペット産業従事者アンケート」では、ペット産業従事者自身が考える生体販売の課題を検討し、「子犬の適正価格シュミレーション」では、ブリーダーへのヒアリングから得られた情報を元に、健全な子犬を育てるための必要経費を試算しました。

この他、余剰犬猫問題の構造の考察、余剰動物問題と環境問題の比較、ペット産業のCSR推進のための提言など、ペット産業のCSRの今後の方向性を考えるための情報がまとめられています。ペット産業が動物福祉に配慮した産業に変化していくための方法を考える上での基礎情報を提供しています。



お問い合わせ・連絡先

認定特定非営利活動法人 人と動物の共生センター

〒500-8225 岐阜市岩地二丁目4-3

【TEL】058-214-3442 【E-mail】info@tomo-iki.jp 【HP】http://human-animal.jp/